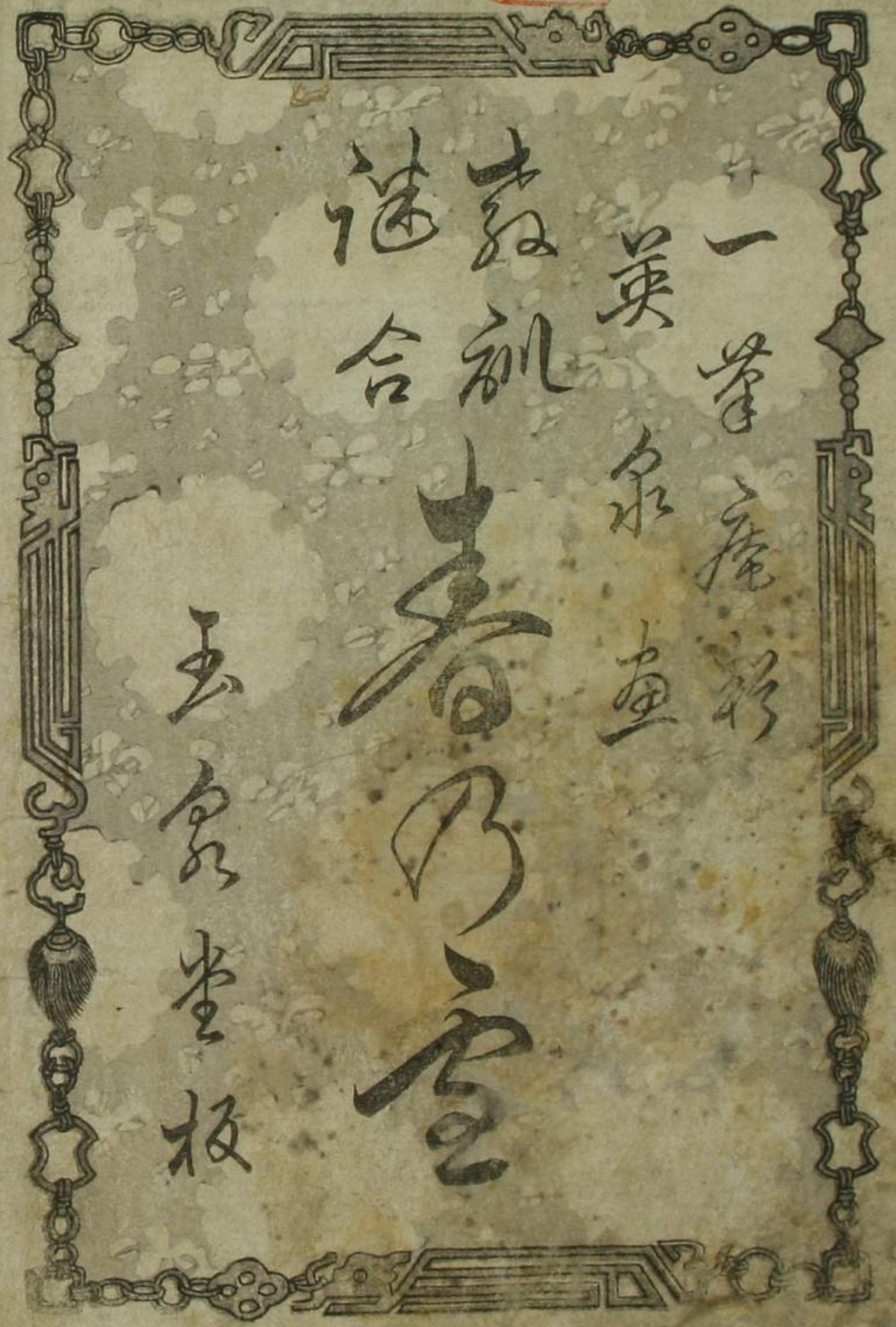




4228 4228 2378



一孝庵新
英泉堂

春の雪
謎合

玉泉堂板



教諭 謎々春の雪序

霜月のあはれと詠ゆ云々至前日足も短き浪りありふれ
仕りあはれと詠ゆ云々至前日足も短き浪りありふれ
短き書肆玉泉堂予が新道の借家と汚るを曰曩に
未だれ春雪坊が謎の一小冊あり童家の為不修
とあり新妻の羨市にせむやと思ひ初日にあはれ
煙の雪女煙と居風と氷を填へ程早く解て嬰見
に通曉易に謎をこら思補綴して様本千一再板
さらん書と頻りふとへと後未敷く棒と横らまて

礫石の針ちりとおのしハ海神うみかみと係かるとま不ふ解げるとと
 汁粉あじこ解げのあ白砂糖しろざつとうであ甘あまにあまふたとまれんたととと解げ
 るた足袋たびのひも紐ひも解げてか係かるひ屏びん凡ぼんれあ帯おび下け卑びてま申まうせあるあるあ
 豆腐とうふ後のち暖ぬるいいろもあくふ二ふた葉は茶ちやのせん花はなのう落おちおくあ貴き打うち甲か紙し
 小こああれれもも周しゅうであ踏ふぐあ火ひのく糞ふんとあ洗あいいふあふあのあ其その海うみのあ
 係かてまされれ我われ等ら即すなは席せきはと解げるあ草くさ稿こうせんせん先せんのあ江え
 文ぶんとか係かてま久く松まつがあ親おや父ちちとあ解げ心こころのあ結むすのあ急いそ作さくとあ何なにもあ初はつ
 色いろのあ舌したのあ糸いとのあ糸いと切き庵あん丁てい長ながのあ鈍鈍いい作さくもあ地ち味あじ
 肝かん心しん其その先せん何なにでもあ二ふた篇ぺんのあ下げ條じょう幸こうのあ書かき金かね御ご利りがあ才さい
ハニモト サクリヤウ

るぞ一

其その先せんアあ何なにでもあ○のあ縫ぬいとあ戲あそ作さく共どもとあ係かてま日ひ雇いのあ百ひゃく姓せいとあ解げ
 心こころのあ作さく料りょう次じ弟ていであ働はたらくあとあいいぬぬくあとあいいぬぬくあとあいいぬぬくあ
 板いた元もとのあ勘かん定ていとあ解げ心こころもあ毛けがあたあんあとあ欲ほしあいあトあ云い双ふた方かた
 胸むねのあ隱いん語ごのあ向むか答た解げ得え心こころのあ分ぶん福ふく茶ちや釜かまのあ毛けのあ出でとあ福ふく
 のあとあありあ欲ほむあのあ縫ぬい互たがひにあ果は結むすとあ思おも需すとあまありあるあ白しろ壁かべ中ちゆう
 るあ思おもとあ係か一ひと行い燈とう引ひきあ煙えんのあ中ちゆうにあ鏡かがみ留とどめあ付けるとあ云い花はな子こ紙し
 乃すなは碇いかり小こ白しろ筆ふでとあ探たづねあれあばあ同どう烟えんとあ鼻はなとあたあじあてあ居いるあのあいあるあ
 やあらありあ綿わた一ひとサさトと画え工くわ作さく者しやのあ二ふた又またのあ脚あしとあ連つれあのあかあ身み
 序ついでつあらあぬあまあをあ誥ごてあ書かきあ申まうすあ限かぎりあああまありあるあかあらあいあのあ

無^きる愚^ぐ老^{らう}が魚^うの紙^しを獨^{ひとり}嘆^{なげ}じて走^{はし}り馬^{うま}の放^{はな}つる如^{ごと}く
支^しぬ漫^{まん}め小^{せう}誌^しし首^{しゆ}卷^{まき}の餘^よ指^{さし}をぬき若^{わか}く例^{れい}の撰^{せん}
川^か名^な馬^ま鹿^か市^し隱^{いん}免^{めん}角^{かく}中^{ちゆう}の申^{まを}う馬^{うま}の驛^{えき}と馬^{うま}の如^{ごと}く
る小^{せう}物^{ぶつ}るる園^{えん}るるも河^かるんと大^{おほ}きには世^せ活^{かつ}お
茶^{ちや}代^{だい}り香^{かう}名^な酒^{しゆ}を碎^{くだ}る管^{くだ}れ如^{ごと}くと平^{へい}南^{なん}云^{いふ}

一筆茶弁主人戯書

時^{とき}維^い天^{てん}保^ぼ十^{じゅう}五^ご年^{ねん}の中^{ちゆう}冬^{とう}を一夜^{いちや}解^げ稿^{こう}成^{じやう}
同^{どう}十^{じゅう}六^{りく}年^{ねん}己^この新^{しん}春^{しゆん}發^{はつ}兌^{たい}なり

謎々春の雪

題辭

一筆茶弁主人誌

嘗^{かつ}聞^き謎^めの戲^げを倭^わ漢^{かん}俱^くふ古^こく傳^{でん}て幼^{ちゆう}稚^しとの才^{さい}
智^ちを試^しと秘^ひ音^{おん}古^ことせり明^{めい}和^わ安^{あん}永^{えい}の頃^{ころ}まで世^よに流^{りゅう}行^{かう}
あて小^{せう}冊^{さく}とるて童^{どう}蒙^{もう}の弄^{ろう}とるて享^{きやう}和^わの以^い端^{たん}唄^{うた}小^{せう}雅^や
正^{せい}時^{とき}花^か唄^{うた}とせり大^{おほ}いふ世^よに行^いれり夫^{それ}より文^{ぶん}化^か文^{ぶん}政^{せい}の目^め
浅^{あさ}草^{そう}親^{しん}音^{おん}の境^{けい}内^{ない}の謎^め坊^{ぼう}主^{しゆ}春^{しゆん}雪^{せつ}と云^{いふ}の奥^{おく}乃^なりより来^き
一^{ひと}と即^{すなは}席^{せき}の難^{なん}題^{だい}の謎^めを解^とけ其^{その}頓^{とん}智^ちの妙^{めう}なる人^{ひと}稱^{せう}世^せ
る是^{これ}も大^{おほ}いふ流^{りゅう}行^{かう}と都^と鄙^びの風^{ふう}聞^き高^{たか}くも程^{ほど}を止^とめ



有智 無智 三十里 の 誇



庚詞之歌

近き以て其心と云の由あるは昔の質朴なる童蒙も斯る
戯れに文智と煉教の一端とるせりのり往古の謎の今
大の異り今の何と係ると云は更古の變る言を以て答
是を解と云其心あると云て始係る古の趣意と合さ
謎と云とも昔の倭漢とも隠語と云て判支物の類と玉篇
謎の隠言也とあり亦庾詞と云り代辭曰古の所謂庾詞即
今の隠語や俗の所謂謎也とあり字謎と云て文字の義理を
詩の例より例多し極む春夏秋冬と云字謎の待し三人同
行去觀花の謎なり百友元来共一家夏の字の禾火二人相

對坐秋と云字夕陽橋下一双瓜冬と云字皆如此一倭國の
歌ゆも多しあり誰も知る歌の待し青小更初待の声聞ハト
云同訓ふさるるなり「あなわかれの鶏ののろト云離憂と
文字の角文字さか文字ゆが文字とをまていあがト云
こいこいト云る隠語と云く日足等の類夥
多ありて其意を悟を解といふあり字の初めの解ふあは人の
才不才と知る昔古とあり唐土でも有智無智二十里と云
誇あり漢の代小曹町と云の女曹娥の属と云るは孝婦と其
父の江小沈と死したりと悲し屍を尋て七日江の辺をさるひれども

得ざらんれば江中此を投て死けれども終不父の屍と背負て俱
浮けるを憐みて墓とつた尹度尚と云々の孝女と謚一邯鄲淳と
云の碑の文と書なり其后因公幹と云の黄絹幼婦外孫蕤
白の八字と碑の文の背の書付たり夫より遙か後之國の附魏曹
操江南と通り時曹娥が碑の文の背の彫る八字と見て諸軍
小向て此心を回へとも知るもの多揚脩と云る者独此心を解
と云其時曹操汝がく滑舌あられそ道と往て三千里ふ去
て稍悟て揚脩小回揚脩が曰此八字は是隱語之黄絹は色は
糸也絶の字は幼婦は少女也妙の字は外孫は女の子の字の

好の字也蕤白の五辛と受る器辛と受る辭の字は絶妙
好辭と云四字や邯鄲淳が碑銘を稱美する八字ふこそ
と呑けれ曹操笑て実我もあつたりと云一とを然が曹操と揚
脩との才智三千里の遠ありとそ是も世有智無智三千里と諺
小云傳へり又曹操花園を作せり時其門外活の字と書り此
心を解のは揚脩の解は終く向門の中央活の字あり是閑也
閑いじらと訓を花園の廣を嫌ひの云と云又或日塞北より
酥と送る曹操喜びて箱の蓋は一盒酥と云之字を記して虚睡
きて居るは揚脩來り是とて則匙と取て分て衆人ふ飲む



曹操起て其意を向の揚脩答て丞相命ありて箱の表一人
 一口血酥と疾一の人が敢て君命の遠んとぞ召れ衆と共一口
 ぐ嘗言盡しとると曰くまが曹操もその才智の勝れらるる教
 び忍れて楊脩を忌悪しとらひ総て人の才不才の只学文乃
 有と益ふあり頼智の生質によるといふも博学廣才も学ぶと
 の秘昔古ふあれが一時の戲と云とも幼き老ふ教諭の一端ともる所
 へは又の強の弁をとりし自ら有益の更多く故の野俗
 の稗史も童蒙の授けて常ふ弄び看支あれが自然と其
 事小馴る智賢くるものされは是教の捷徑とも云べき也

お寺の
上りの
其茶を
ぎとくけて



おやしの
門ト
くけて



浅草の
あひてん
トくけて



秘秘
子の旅立
トくけて



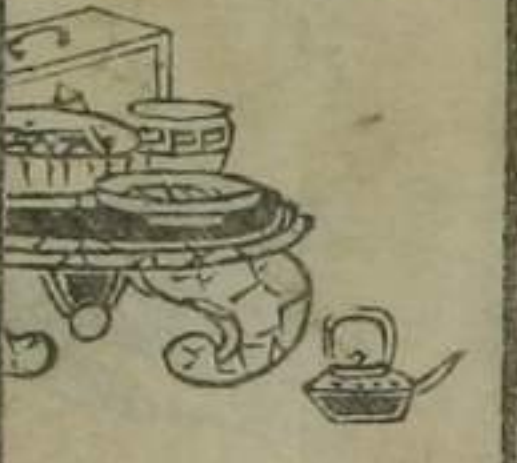
やねの
ゆき
トくけて



世に
あらし
トくけて



あとり好の
くしト
くけて



おんた
日本橋
トくけて



神の
まのト
そく



七福神の
ころんと
トそく



宿の
居の
トそく



解の
粉ト
そく



大あくの
あそろ
トそく



たま
のまの
トそく



さうとん
の花ト
そく



あまふ
がま
トそく



心
の
出されぬ



ゆ
の
六ツ



風雷
の
あん汁



つら
つら
つら



ゆ
の
ゆ



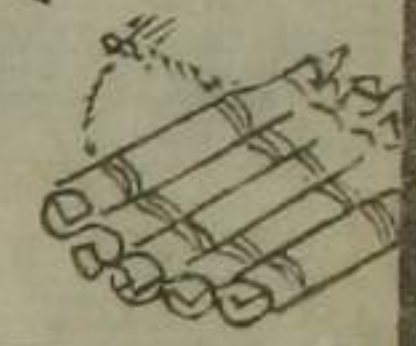
ゆ
の
あ



ゆ
の
とが



百目
らうそく
トウキテ



さるごの
娘帯
トウキテ



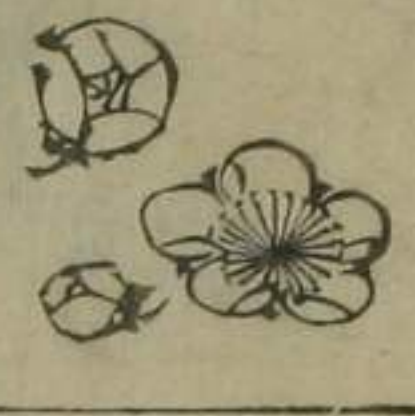
鳴ぬさんび
トウキテ



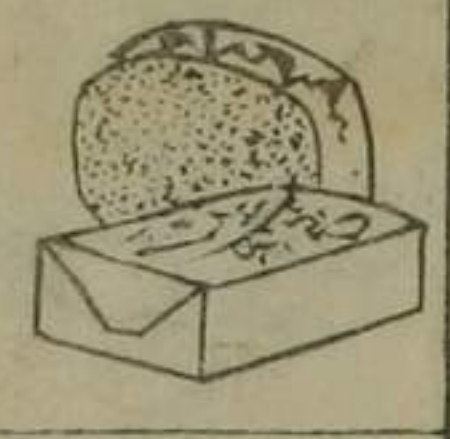
びんごうる
世帯
トウキテ



梅の
つがミト
トウキテ



つらぬ
粗茶ト
トウキテ



文盲
トウキテ



茶など
残るト
トウキテ



学者の
おのト
トウキテ



あぐの
水トウキテ



磨
トウキテ



折
トウキテ



用の
紙
トウキテ



泥
トウキテ



こころ
トウキテ



ゆひき
トウキテ



心
あつら
トウキテ



心
トウキテ



心
トウキテ



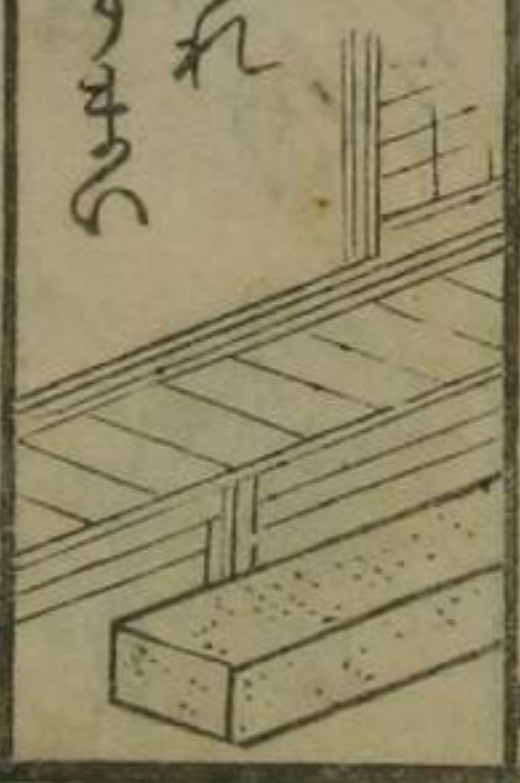
心
トウキテ



心
トウキテ



心
トウキテ



心
トウキテ



心
トウキテ

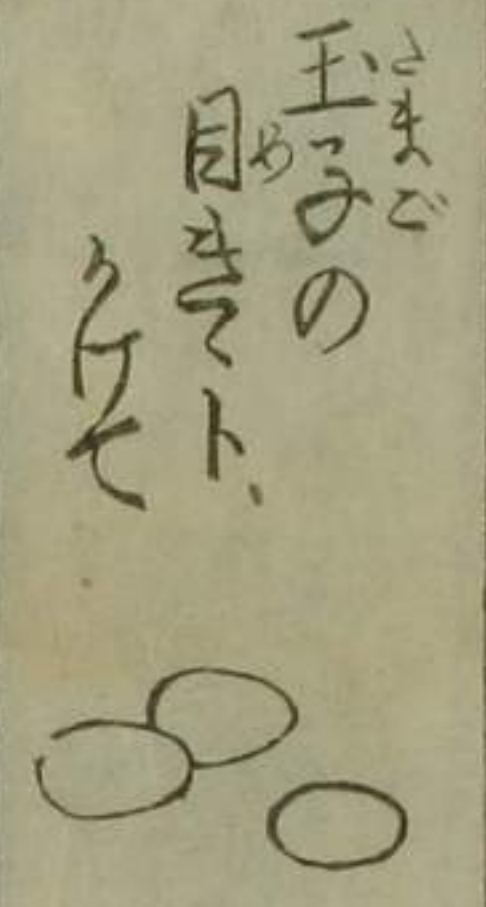




富士の山ト
なひて



男おとこの
たそ
なれト
なひて



玉たまご子の
目めきト
なひて



川かわの
柳やなぎト
なひて



仕立しだての
文ぶんト
なひて



琴ことの
箱はこト
なひて



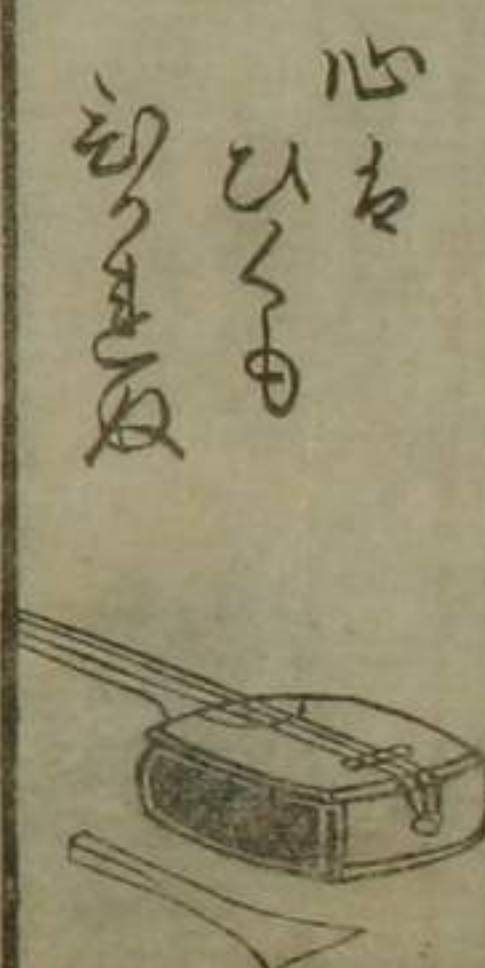
これこれの
ちやん
ト
なひて



小せうの
便べんト
なひて



心こころの
光ひかりト
なひて



心こころを
ひく
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて



心こころの
おつけ
ト
なひて

綴汁
ト
かけ



三ツめ
きりト
かけ



内院
ト
かけ



夫婦
みるト
かけ



糖
ト
かけ



田
ト
かけ



下
ト
かけ



浅草雷門
ト
かけ



主人の
揚子ト
かけ



盲人
ト
かけ



奴頭の
ト
かけ



ト
かけ



三
ト
かけ



武
ト
かけ



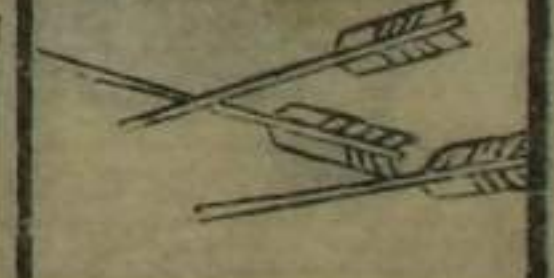
猫
ト
かけ



ト
かけ



心
あ
かけ



四
あ
かけ



心
あ
かけ



心
あ
かけ



心
あ
かけ



心
あ
かけ



心
あ
かけ



心
あ
かけ



馬うまののトト
かけて



びんがらびんがら
縁人えんじん
トトかけて



金かねののトト
かけて



雷かみなり
トトかけて



五合ごがう徳利とくり
トトかけ



日光にっこうののトトかけ



水みづののトトかけ



乃のトトかけ



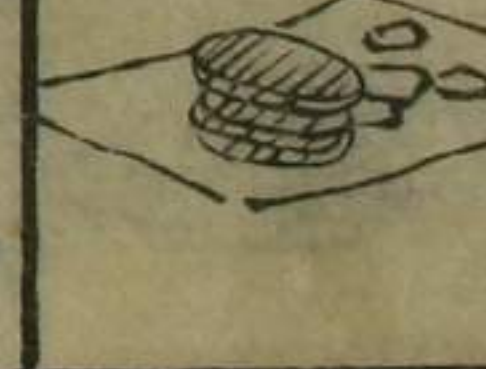
心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



大おほなるなるトトかけ



糸いとののトトかけ



糸いとののトトかけ



あしきあしきののトトかけ



糸いとののトトかけ



玉たまごののトトかけ



糸いとののトトかけ



ううののトトかけ



心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



心こころののトトかけ



桃の
葉
トク
トク

ま
ま
角カ
の
や
トク

ひ
ひ
ち
ち
ち

ひ
ひ
ト
ト

角カ
の
ひ
ト

心
心
せ
し
ま

西
行
ト

本
宿
で
喰
ひ
ト

か
か
く
ま

大
風
の
葉
山
子
ト

急
用
ト

心
心
と
と
ゆ
ゆ
ま

大
名
の
園
入
ト

徳
利
ト

か
か
あ
あ
あ

つ
つ
用
ト

湯
の
男
ト

あ
あ
あ
あ
あ

古
家
の
葉
ト

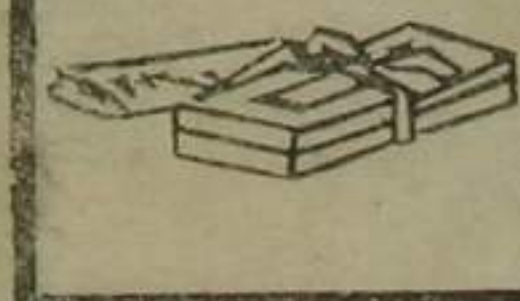
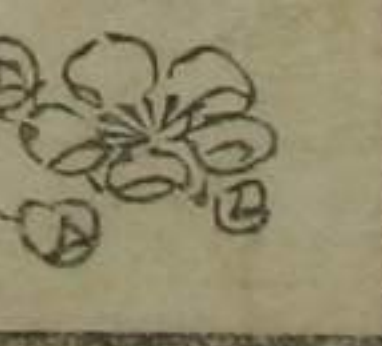
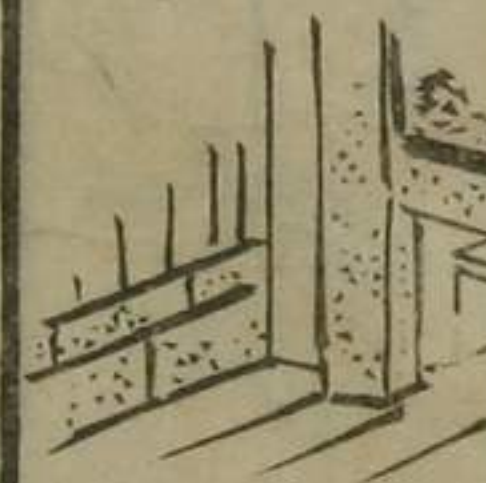
か
か
女
ト

心
心
の
ま
ま

一
月
ト

さ
あ
の
ト

心
心
あ
あ
あ



びくおの
あごま
トクハ
て



あき
ふれつ死
あき
トクハ
て



あてろの
のト
クハ
て



あけ
日よりの
長あめ
トクハ
て



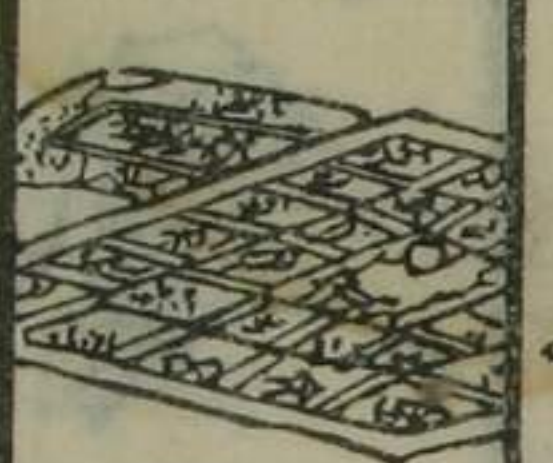
あき
あき
トクハ
て



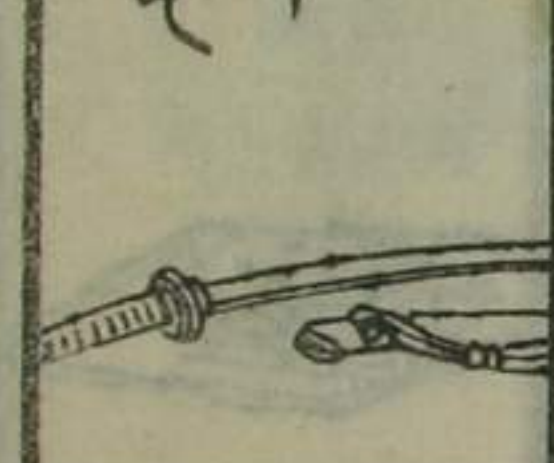
あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



あき
あき
トクハ
て



大男の
きりの
トクケ



遊舟の
ゆんぽき
トクケ



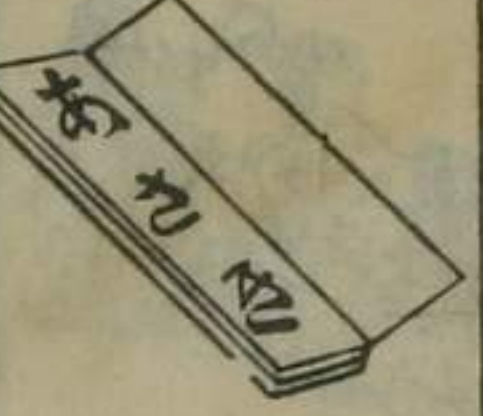
岩の
ささろ
トクケ



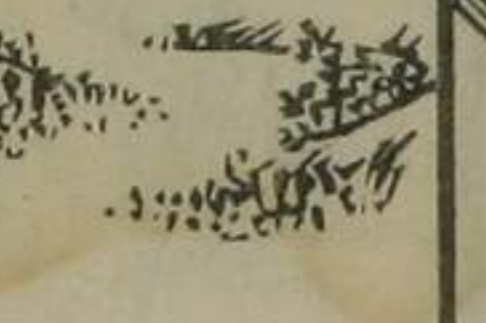
産所の
目入ト
クケ



あつもの
さの字
トクケ



水の
川ト
クケ



るまの
のま
トクケ



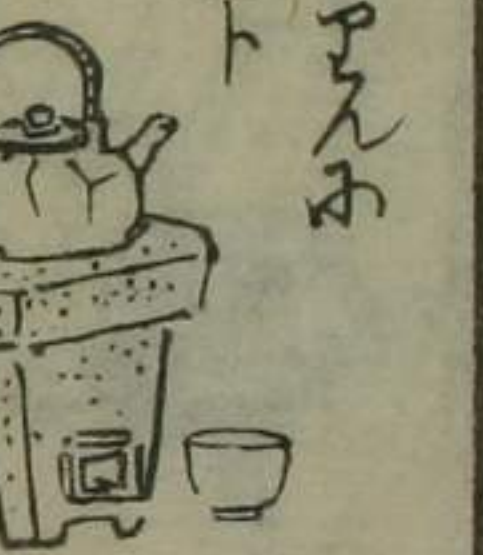
黒
あいの
トクケ



菖の
トクケ



石の
とく
トクケ



天物の
ゆん
トクケ



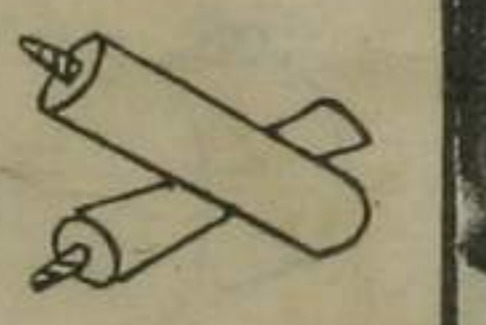
魚の
おと
トクケ



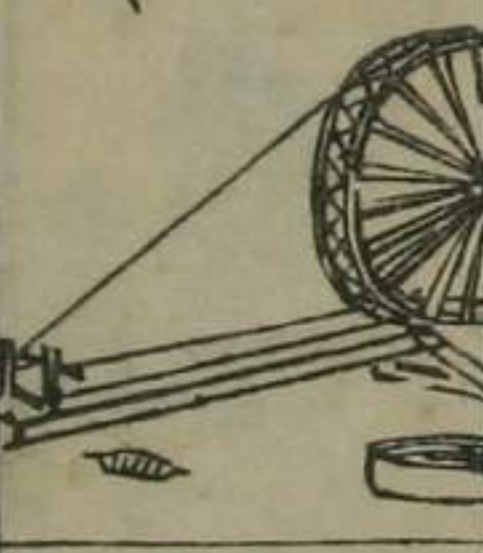
十五
の
トクケ



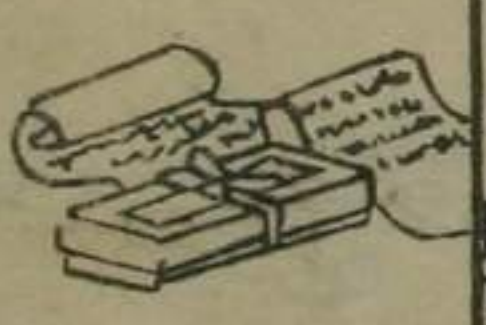
生掛の
らう
トクケ



車
トクケ



退屈
トクケ



おの
トクケ



心
たまる
トクケ



くら
たろ
トクケ



おの
トクケ



心
中
トクケ



ゆ
トクケ



男
トクケ



おの
トクケ



糸の
きりぬ
ちと
くひて



珠物の
去用が
とくひて



とろり
とろり
くひて



睦
ふらぬ
とくひて



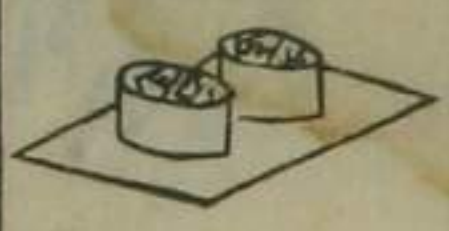
天竺
とくひて



川
船
とくひて



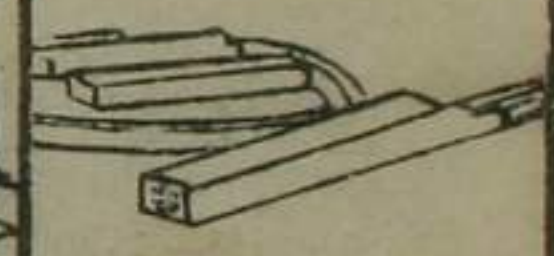
あぐけ
られよ
とくひて



黒
帯
とくひて



とん
とん
とん



おろろ
けさ
とくひて



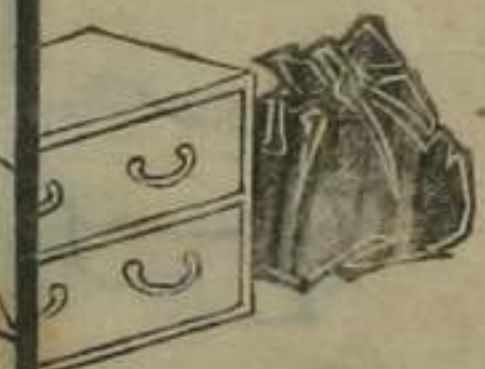
さ
すい
とくひて



か
井戸
とくひて



びん
たん
とくひて



いろは
へと
とくひて



糸
とくひて



日
とくひて



つ
あ
あ



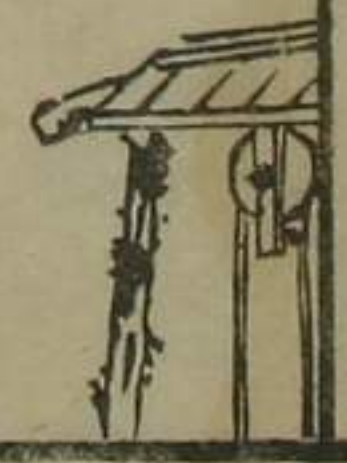
あ
あ
あ



心
た
あ



あ
あ
あ



心
あ
あ



あ
あ
あ



あ
あ
あ



あ
あ
あ



せん中の
ころろト
うけて

名人の
通し矢
トとく

心の
あつち
ごりごり

馬口券
の市
トとく

たま
の池
トとく

ふち
うま
うま

えん会
のきん
とま
トとく

かびらの
木ののり
トとく

ゆる
ちり
あがる

せん
のきん
トとく

足袋
トとく

ふち
あつち
あがる

たぐあん
大根
トとく

あん
トとく

心の
あつち
あがる

ふき
とま
トとく

つねの
まうまん
トとく

心の
あつち
あがる

金物
トとく

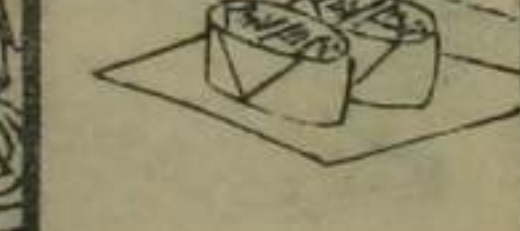
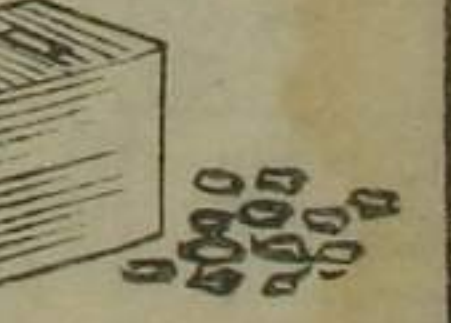
ふせ
のり
トとく

心の
あつち
あがる

えん
のきん
トとく

山
のり
トとく

心の
あつち
あがる



夕暮の
川で
トクケ



唐の
火事
トクケ



白木の
おこま
トクケ



九月の
草花
トクケ



あや
の
トクケ



座の
かろ
トクケ



狸の
さん
トクケ



さる
の
トクケ



あや
の
トクケ



ん
の
トクケ



心
の
トクケ



ん
の
トクケ



年礼
トクケ



おか
の
トクケ



黄金の
釜
トクケ



九月
の
トクケ



あ
の
トクケ



猫と
の
トクケ



あ
の
トクケ



あ
の
トクケ



あ
の
トクケ



あ
の
トクケ



あ
の
トクケ

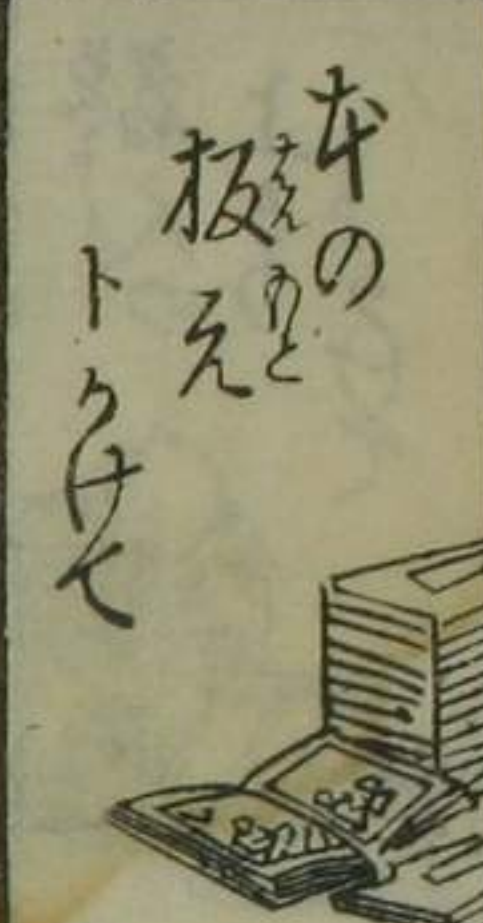


あ
の
トクケ



<p>あひの 朝の トク</p> 	<p>上人の 上る トク</p> 	<p>大悪の 中 トク</p> 	<p>夏の 富士 トク</p> 
<p>おきうの かや トク</p> 	<p>かろを が トク</p> 	<p>ごり 毛の やり トク</p> 	<p>巾の 反 トク</p> 
<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 

<p>彩の 入口 トク</p> 	<p>せき の トク</p> 	<p>たき だめ トク</p> 	<p>親 息 トク</p> 
<p>おき の トク</p> 	<p>ありの の トク</p> 	<p>ハツ の トク</p> 	<p>坊 の トク</p> 
<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 	<p>ひん あつ トク</p> 



教論きょうろん 春の雲三篇はるのくもさんぺん

一筆書并画作
 續以て出扱賣出つづいてしゅつじやくうりだす
 宛先あてまえの半紙はんしにて承取うけとり

天保十六年
 乙巳春新彫

東都書肆 布袋屋市兵衛版
 中橋下槓町

笑田町老丁目



お八日也

由

